

1ページ文字数: 48字
1ページ行数: 46行
余白 上下30mm 左右25mm

上下マージン30mm

左右マージン25mm

社会地質学シンポジウム論文集和文原稿作成例 MSゴシック、14pt、bold

社会花子¹・地質太郎²・William Smith³ 10.5pt

1行のスペース

1: 社会地質大学理学部社会地質学科 〒261-0005 千葉市美浜区稲毛海岸三丁目無番地 E-mail:hanako@jspmug.ac.jp 9pt

2: 社会地質株式会社 技術部 〒260-0023 千葉市中央区出洲港 100 E-mail:taro@jspmug.co.jp

3: Member of JSPMUG, Jspmug.Co.,Ltd.

1行のスペース

The example of writing Japanese manuscript of the Symposium on Geo-

Environmets and Geo-Technics

Times New Roman、14pt、bold

Hanako Syakai¹, Jiro Chishitsu² and William Smith³ 10.5pt

1行のスペース

1: Urban-geo University, Faculty of Science, Department of Urban-geo 3, Inagekaigan, Mihama-ku, Chiba City, 261-0005, Japan. 9pt

E-mail:hanako@jspmug.ac.jp

2: Urban-geo Co.,Ltd. 100, Dezuminato, Chuou-ku, Chiba City, 260-0023, Japan. E-mail: taro@jspmug.co.jp

3: Member of JSPMUG, Jspmug.Co.,Ltd.

1行のスペース

Abstract

Times New Roman、11pt、bold

This paper describes an example of creating a Japanese manuscript for a collection of papers. The abstract should be written in English. There should be one space between sentences. Character font is Times New Roman and font size is 10 points. Latin fonts such as biological names should be Times New Roman, italic, 10 points.

Times New Roman、10pt、bold

1行のスペース

Times New Roman、10pt

Key Words: *Times New Roman, italic, 10pt, one blank line below abstract, about 5 key words*

1行のスペース

Times New Roman、10pt、italic

構成の概要

MSゴシック、11pt、bold、中央揃え

日本語原稿は以下の順に構成すること。①日本語の表題、②日本語の執筆者名、③日本語の執筆者の所属と住所、④英語の表題、⑤英語の執筆者名、⑥英語の執筆者の所属と住所、⑦英語の要旨、⑧英語のキーワード、⑨謝辞、⑩引用文献。

←明朝(半角英数字はTimes New Roman)、10pt、両端揃え、字下げ1字

原稿は A4 版で作成すること。また、その際原稿はそのまま印刷できるように、文章や図表を適当にレイアウトし、完成させたものを編集委員会に提出すること。このため、以下の原稿作成方法に従って作成すること。

1行のスペース

原稿の書き方

MSゴシック、11pt、bold、中央揃え

和文原稿の書き方 MSゴシック、11pt、bold、右揃え

社会地質学シンポジウム論文集における和文原稿の書き方は以下のとおりである。

- ① 投稿原稿は A4 版で作成する。この投稿原稿に編集委員会が作成した柱の原稿を付け、B5 版に縮小し、そのまま印刷する。よって、原稿はそのまま印刷できるように著者が作成すること。
- ② すべて図表などの大きさやレイアウトは、刷り上がりを考慮して行うこと。
- ③ 原稿の余白は、上下 30mm、左右 25mm とし、図表や本文が余白にかかってはならない。
- ④ 本文は、MS 明朝 10 ポイントで書く。なお、1 頁あたりの文字数と行数は、48 字×46 行とする。
- ⑤ 見出しには原則として番号を付けない。大見出しは前 1 行あけてセンタリングし MS ゴシック太字 11 ポイントで書く。中見出しは前 1 行あけて左詰めとし、MS ゴシック太字 10.5 ポイントで書く。小見出しは、左詰めとし、MS ゴシック太字 10 ポイントで書く。なお、見出しは大見出しから優先して利用することとする。

- ⑥ 完成原稿の右下隅に、著者名とページを鉛筆で書くこと。
- ⑦ 句読点、引用符、その他記号もすべて全角1字で書く。
- ⑧ 文中の英字、数字は半角で Times New Roman 10 ポイントの大きさに書く。
- ⑨ 生物の学名などラテン語は Times New Roman 斜体 10 ポイントで書く。
- ⑩ 完成原稿の例を別添に示す。見本 A は Microsoft Word にて作成したものである。

1行のスペース

構成 MSゴシック、11pt、bold、右揃え

第1行目から日本語表題を MS 明朝体太字 14 ポイントで書きセンタリングする。

次の行に執筆者を MS 明朝体 10.5 ポイントで書きセンタリングする。この際、所属ごとに同じ番号を氏名の最後に上付き 1/4 角で付し、所属名と住所を執筆者名の次の行から日本語で MS 明朝体 9 ポイントで書きセンタリングする。筆頭者が希望する場合は、e メールアドレスを、所属の住所の後に2字空けて、例のように書く。例)「e-mail: abc@defgh.jp」

一行空けて、英文の表題を Times New Roman 太字 14 ポイントで書きセンタリングする。

さらに次の行に英文の執筆者名を Times New Roman 10.5 ポイントで書きセンタリングする。なお、執筆者の表記は、最初に First name 次いで Middle name 最後に Family name を書く。なお、Family name はすべて大文字で書き、First name や Middle name は原則として最初の1文字目は大文字で、2文字目以降は小文字で書く。また、所属を和文に合わせて Family name の後に上付き 1/4 角で付す。この次の行から英文の所属名と住所を Times New Roman 9 ポイントで書きセンタリングする。

次の行の中央に「Abstract」と Times New Roman 太字 11 ポイントで書き、さらに次行から英文要旨を Times New Roman 10 ポイントで 200 語～300 語で書く。

英文要旨の最後の行から1行空けて、左詰に Times New Roman 太字 10 ポイントで「Key Word:」と書き、続けてキーワードを5語ほど Times New Roman 10 ポイント斜体で書く。

この後、1行空けて本文を書く。

謝辞は、本文の最後に入れる。前の見出しの文章の最後の行から1行空け、左詰で「謝辞」と MS ゴシック太字 10.5 ポイントで書き、続けて謝辞文を MS 明朝 10 ポイントで書く。

和文の最後には引用文献を書く。その際、「文献」は大見出しの扱いとする。

1行のスペース

文章と文体 MSゴシック、11pt、bold、右揃え

文体はひらがなと漢字による「である」調とし、現代かなづかいを用いる。

漢字は当用漢字とする。ただし、固有名詞や学会で広く用いられている慣用の述語はこのかぎりでない。

句読点は「。」、「、」を用いる。

本文中(謝辞を除く)の人名には敬称をつけない。

数量を表す数字はアラビア数字とする。

単位は原則としてメートル法により、省略形(例えば、km や cm, μm など)を用いる。

数式はなるべく2行以上をしめないように書く。

文中に外国語を挟むことはなるべくさける。ただし、学名、適当な訳語がない述語、固有名詞などはこのかぎりでない。

文中の英文は原則として小文字を用いる。

固有名詞で、読み異なる恐れのあるものにはふり仮名(かな)をつける。

1行のスペース

引用文献 MSゴシック、11pt、bold、右揃え

以下のとおりとする。

- ① 文中の文献の引用は、下の例にならう。ただし、著者名のまぎらわしいものは、姓名を完全に記載する。

例)

- ・小川(1899)は、これを中央日本横溝帯と呼んだ。

- ・これを中央日本横溝帯（1899）と呼んだ学者もある。
 - ・これらの研究（原田，1888；小川，1899；小沢，1923a, b）によると，・・・
 - ・Smith（1986，1988）はこれを研究して・・・
 - ・多くの研究者によって研究されている（小川，1899；小沢，1923，1924）
- ② 引用文献は文献として論文末に一括し，著者名のアルファベット順，同一著者の論文は，単独論文を年代順に，続けて第 2 著者のアルファベット順とし，同一の組に記載する．文献の書き方は，以下の例のように記載する．
- イ）和文は姓名の次に著作物の出版年，次いで題名を書き，題名の最後は「．」で止める．次に雑誌名ないし書籍名を書く．書籍の場合はこの後出版社名を書く．最後に引用部分のページ数を書き「．」で止める．
- ロ）英文も同様の順に記載していく．姓名については，Family Name から書き始め，Family Name の最後に「，」を付け，半角開けて Middle Name や First Name のイニシャルを書く．雑誌名および書籍名は斜体で書く．
- ③ 学術雑誌等の電子出版態を引用する際には，特別の引用表記法が指定されている場合を除いて，通常の印刷出版物と同様の引用表記とする．なお，印刷出版物と電子出版物が同時に出版されている場合には，印刷出版物を優先して引用すること．
- ④ インターネット上の情報の引用については，その情報が当該原稿の出版時点以降十分な期間にわたって存在し続け，かつ掲載内容が固定的であることを必要とする．参照を行う際の記載にあたっては，原則として公開出版物への URL 掲載の許可を web 掲載管理者から著者が受けることとする．単一の参照先については，ページファイル名を含めた URL，複数ないし全体を参照する場合には当該ホームページアドレスを明記し，当該ページの著作権者名とともに引用することとする．

1行のスペース

図・写真・表 MSゴシック、11pt、bold、右揃え

図・写真・表は，次の 2 種類に分け番号をつける．a.Fig.:本文中に入れる図および写真．b.Table:本文中に入れる記号・数字・文字・ケイのみからなるもの．

図・写真・表中の文字は英文とする．ただし，日本語を併記してもよい．

図・写真・表の説明文は，英文とし，図表に隣接して Times New Roman 9 ポイントの大きさで書く．なお，Fig.と Table は同書体同サイズの太字にする．

図・写真・表は，本文中に著者の責任で挿入し提出原稿とする．その際，原稿が約 80%縮小されて印刷されることを考慮すること．

図・表はモノクロもしくはグレースケール（256），写真はグレースケール（256）で作成する．なお，文章中に挿入する際は“挿入”とし，“ファイルにリンク”としないこと．

例：図・写真)



図・写真を行間挿入の場合は中央揃えにする

Times New Roman、9pt、Bold

Fig 1 The picture shows the babble of a clear stream flowing through a river with many white stones.

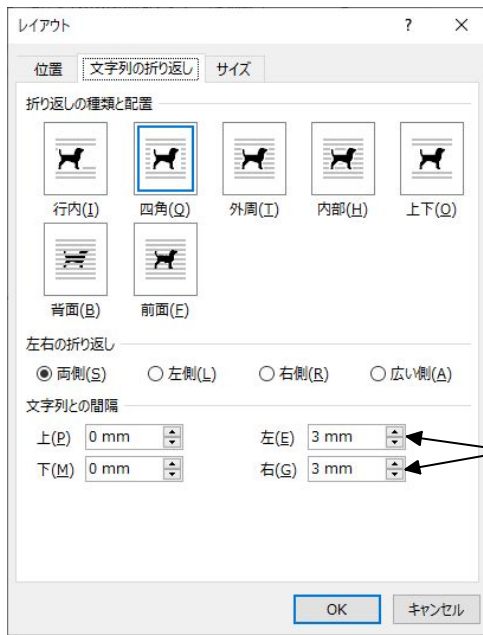
References: BEIZ images Web Site(<https://www.beiz.jp/%E7%B4%A0%E6%9D%90/%E5%B7%9D/00008.html>)

1行のスペース

Times New Roman、9pt

図・写真の説明は中央揃え

本文中に図・写真を挿入した場合、本文を図・写真の上下でなく、左右に配置する場合は、左右に 3mm の余白を設ける。



図・写真の左右に本文を入れる場合は、左右3mmとする

Fig.1 The image of the string wrapping

図・写真の説明は挿入した図面の中央に配置

1行のスペース

例：表)

Times New Roman, 9pt

Times New Roman, 9pt, Bold

Table 1 List of names and affiliations of academic officers

表の説明は中央揃え

Job title	Name	Affiliation name
President	Satoshi Murao	Daiichi Institute of Technology, Faculty of Engineering
Vice-president	Shinji Takeuchi	Nihon University, College of Humanities and Sciences
Councilor	Takeshi Komai	Tohoku University, Graduate School of Environmental Studies
Councilor	Niichi Nishiwaki	Nara University, Honorary professor
Councilor	Takayuki Kawabe	Yamagata University, Honorary professor
Councilor	Shigeru Kasahara	ME-SAI INC.
Audit Committee	Kumiko Iwai	Chiba Prefectural Environmental Foundation
Audit Committee	Mitsuo Sato	Shinko Engineering CO.,LTD.

1行のスペース

引用文献

MSゴシック、11pt、bold、中央揃え

国土地理院, 2019, 基盤地図情報サイト, <https://www.gsi.go.jp/kiban/index.html>.

加藤武夫, 1920, 黒鉱鉱床に就いて, 地質雑, 27 巻, 301-309 ; 326-332.

加藤武夫・杉 健一, 1927, 日本西南部外帯の推し被せ構造 (Deckenstruktur) (予報), 地質雑, 34 巻, 249-252.

小池 清, 1957, 南関東の構造発達史, 地球科学, 34 巻, 1-16.

Mitchum, Jr., R.M., 1977, Seismic stratigraphy and global changes of sea level, part 11 : Glossary of terms used in seismic stratigraphy. Mem. Amer. Assoc. Petrol. Geol., no.26, 205-212.

小川琢治, 1944, 日本列島, 弘文堂, 東京, 372p.

Oishi, S., 1940, The Mesozoic floras of Japan. Jour. Fac. Sci. Hokkaido Imp. Univ., Sec. 4, 5, 123-480.

大塚之助, 1938a, 新生界対比における軟体動物化石の価値., 地質雑, 45 巻, 302-315.

大塚之助, 1938b, 南部フォッサ・マグナ地質構造上の一特性. 地質雑, 45 巻, 528-529.

Reading, H.G., 1986 ed, Sedimentary Environments and facies 2nd ed.. Blackwell Sci. Publ., Oxford, 615 p.

Schuchert, C. and Lomgwell, C.B., 1932, Paleozoic deformations of the Hudson Valley region, New York. Amer. Jour. Sci., Vol.23, 305-326.

明朝(半角英数字はTimes New Roman)、10pt、両端揃え
インデントは、ぶら下げ1字